

会 議 録

会議の名称	第3回高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会		
開催日時	平成29年11月24日（金） 午前9時30分～11時30分		
開催場所	笠間市役所本所 行政棟 2階 大会議室	事務局	高齢福祉課
会議の公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <非公開・一部公開とした場合の理由>	傍聴者数	1人
出席者	委員：大藏委員長，竹田委員，菊地委員，室井委員，廣瀬委員，竹江委員，平本委員，常井委員，藤枝委員， 立川副委員長（欠席），清宮委員（欠席），木村委員（欠席），土井委員（欠席） 村上委員（欠席），鷹松委員（欠席） 事務局：堀内高齢福祉課長，長谷川包括支援センター長，飯村笠間支所福祉課長，櫻井課長補佐，久保田課長補佐，武井主査，金木主査，鈴木係長，宮本係長，千葉係長，コンサルタント業者：ワイズマン 山口研究員		
議題	協議事項 ○高齢者福祉計画・介護保険事業計画 第7期（案） （1）第1章 計画の概要について （2）第2章 高齢者を取り巻く現状について （3）第3章 計画の基本的な考え方について （4）第4章 高齢者保健福祉・介護保険事業の展開について （5）第5章 将来推計について （6）第6章 計画の推進について		
議 事 （審議経過及び発言内容）			
開会 1. 委員変更報告 2. 委員長あいさつ 3. 協議事項 （1）第1章 計画の概要について （2）第2章 高齢者を取り巻く現状について （3）第3章 計画の基本的な考え方について 事務局：事業計画(案)説明 委員長：P11 要支援・要介護認定者数の第6期推計と実績比較の推計比が90%以上ということで問題はないとの説明でしたが、29年9月の推計比は91.8%で、100%より8.2%低くなっていますが、どのくらい影響があるのでしょうか。			

事務局：介護認定者数に基づいて5章でご説明をさせていただきますが、将来の介護保険のサービス事業量も見込んでいくことになるのですが、保険料の面から言うと、推計値よりも認定者数の実績が多くなってしまおうとどうしても保険料が足りなくなってきました。計画に対して実績が9%くらい低いですが、これが保険財政にどのくらい影響したかというのは、単純に認定者数ではなくて保険給付の中でどのくらいの利用があったかということだと思います。

委員長：保険財政が破綻してしまつては大変なことになりますので、少し余裕をみてということだとは思いますが、取りすぎてしまわないよう次の計画で修正というところでしょうか。

事務局：余剰金が出た場合は、基金として積み立てをしていて、第6期の中で余つたお金は第7期で取り崩して保険料を安くして運営します。

委員長：P34【基本目標3】「茨城県型地域包括ケアシステム」という言葉がでてきましたが、どういうことですか。

事務局：地域ケアコーディネーターなどが中心となり、高齢者だけではなく、障がい者や子ども、難病の方などを含めてファミリーケアを行うというシステムです。国の地域包括ケアシステムと合わせて笠間市では、高齢者以外もサポートしようということで、茨城県型の包括ケアシステムとして取り組んでいます。

(4) 第4章 高齢者保健福祉・介護保険事業の展開について

事務局：事業計画(案)説明

A委員：P56 シルバー人材センター助成事業のところの会員数とは登録会員のことでですか。

事務局：はい、登録会員数のことです。

A委員：仕事はたくさんあるらしいですが、会員数が少なくて仕事が受けられないと聞きました。会員の方の高齢化、また、65歳までは就労している方が多いということで会員になる方も少なく、仕事がさばききれないとききます。第7期の計画値の会員数が増えるようになっていますが、策はあるのですか。

事務局：平成29年度の会員数は330名程度です。登録については、会員にやさしい制度になっていて、入会時に会費をいただいています。登録して1年間お仕事がなかった場合、会費を返金しています。お仕事については、シルバー活動のニーズが高いのは除草作業など、季節的に業務が集中するものが一番多いです。その時期になると各地区で一斉にニーズがでてきて、登録している方がチームで作業をします。シルバー人材センターの仕組みも、こういうメニューを取り組むと国の助成金もさらに上乗せでもらえますよと変わってきています。会員数が伸びている背景には新たなメニューを取り組む上での研修や毎月1回業務内容の説明会、会員を募集する講習会などを行っています。実際、働きたい高齢者、働かなくてはならない方もおり、シルバー会員の確保は必要ですので、目標値を掲げています。

A委員：見守りタグについてですが、これは、2年間の実験ということですが、前に対象者の認知症の方は20名前後ときいていましたが、その後増えているのでしょうか。また、もしこのくらいの数値で実験が終わった時、どういう風になっていくのでしょうか。

事務局：現在の利用者数は30名程度です。2年間の実証実験を行った後、有効性やどのくらい

の効果があつたのかを見極めながら 30 年度以降の事業化に向けて検討していきます。

事務局：補足ですが、見守りタグについては、今までタグを持った方が行方不明になってしまつて経路が受信できたという事例が起こっていないので、有効性の確認はまだできていません。この事業はタグを配ることよりも、見守る体制づくりが重要で、民生員のお宅に探知機を 150 台置いていただいたり、公共施設等にも設置をしております。また、スマートフォンに見守りタグアプリをダウンロードしていただいている方が 200 名を超えているという中で、市のネットワークができています。新年度予算の要求が毎年秋頃になりますので、実証実験 2 年間で終わった段階ではタイミング的に遅いので、ちょうど 1 年後くらいを目途に事業化の検討をします。

B 委員：P78①在宅ケアチーム構築数が平成 27 年度 566 件、平成 28 年度 503 件、平成 29 年度 500 件と減ってきているのに、平成 30 年度以降毎年増えている理由はなんですか。

事務局：平成 25 年度ネットワーク構築以降、全体的にもう一度見直しを行いました。平成 27 年度の 566 件は、今までのケアチームを引き継いだものもありまして、死亡や転出などの件数も入っています。その後もう一度個別訪問などをして、きちんとした見守り体制をつくったことで平成 28 年度に 1 度減っているというところでは、必要の方に対してのケアチームの構築を進めているところです。

B 委員：前にテレビで放送されましたが、一人暮らしの方が服薬しないと連絡が入るという事業はどうなりましたか。

事務局：お薬ロボットというものを実証実験的に利用者のお宅に配置し行いました。今は実証実験の段階ですが、ロボット自体を福祉用具として採用できないかとメーカーの方でも検討していただいています。実際、事業としては組み入れてはいません。

C 委員：P79 基本目標 4 質の高い介護サービスの基盤整備ですが、基盤整備が弱い地域はありますか。

事務局：ケアマネジャーの声を聞いた中では、いくつかあるのかなと思いますが、アンケート調査等で数値化したものはありません。

C 委員：福原地区は、サービスを利用しようとしたときに、送迎等の問題でなかなか通所系のサービスが利用できないときいています。福原地区ですと、笠間市内もしくは隣の桜川市の羽黒地区に協力してもらえないようですので、周辺地区とも情報交換をして地域の境目の方の支援をお願いします。

(5) 第 5 章 将来推計について

(6) 第 6 章 計画の推進について

事務局：事業計画(案)説明

4. その他

パブリックコメント 11 月 28 日～12 月 18 日

第 4 回会議 2 月中旬

閉会

